

令和 8 年度 都城市社会福祉功労者等表彰 受賞者代表あいさつ

都城市社会福祉功労者等表彰を 受賞されました皆さまを 代表いたしまして、一言ひとことご挨拶を述べさせていただきます。

本日は、私ども受賞者にこのような大変栄誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。
受賞者一同、心より御礼申し上げます。また、関係者の皆さまに、深く感謝申し上げます。

私は、平成 26 年から 12 年もの間、ひとり親家庭をはじめとする、困りごとを抱える親子らに寄り添う活動を休まずに続けてまいりました。

今振り返りますと、私の活動の原点は、幼少期の家庭環境や学校生活での生きづらさ、若くして結婚と離婚を経験し、現在も続いています子育てにあり、「葛藤を抱えながら、困ったときに一緒に考え、次の一步を踏み出せる信頼できる場所があったら…」だったと思います。

こどもの立場・親の立場・女性の立場など、それぞれから見えるもの・感じるものは大きく異なり、背景や体験したこと人それぞれです。

問題が一つ、またひとつと重なる度に、「誰に相談したらよいのか分からない」「誰にも頼ることができない」「誰に相談しても変わらない」と、孤独が孤立へと変わり、困りごとが複雑化してしまうこと、心身を悪化させ、生きることさえも諦めなくなることは、ひとり親からたくさんお聴きしてきました。

私もその一人でした。

そうした経験の中、私の場合は、ありがたいことに、思いを行動へと変えるきっかけに恵まれ、その後の人生を大きく変える出会いと出来事へと繋がっていきました。

1 万人もの親子と今までに出会い、全国各地にいる多くの同志や支え手とともに、こんにちまで休まずひたすら。
何度、バーンアウトや実力不足からくる無力感で、「やれない」「もう無理かもしれない」と思ったことでしょうか。

それでも、12 年もの間、こどもを常に真ん中に捉え、学習支援や居場所づくりを始め、相談の中で寄せられる一つひとつの声に正面から向き合いながら、フードバンクやこども宅食、小さな図書館、制服バンクなど、地域で必要とされる活動を着実に少しずつ事業化、また、宮崎県スクールカウンセラーや保護司、家庭裁判所家事調停委員などとして、微力ながら取り組んでまいりました。

こうした活動は、決して私一人でできたものではありません。ともに考え、力を貸して下さった多くの方々が居て下さったおかげです。

そして、不甲斐ない私を温かく支えてくれる息子と娘が居てくれたからこそ、投げ出さずに一つひとつを何とか形にすることができました。

これから私は、誰もが安心して暮らせる地域づくりのために、一人ひとりの声を大切にしながら、丁寧にに関わり、必要な支援へつなげること、制度の狭間にある課題についても、必要な支援が届く仕組みを届けられるよう、私ができる最大限のことをやり抜いていきます。

そして、次の世代を担うこどもたちが生まれ育った環境などによって、夢や希望を諦めることなく、自分らしく未来を描いていけること、すべての誰もが困ったときに声を上げ、地域の中で支え合えることを強く願ってやみません。

最後になりましたが、本日の表彰式の開催にあたり、ご尽力いただきました関係者の皆さまと、この会場へお越しくださいました皆さまに厚く御礼申し上げますとともに、今後とも日々研鑽・日々精進してまいりますので、より一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

甚だ、簡単ではございますが、受賞者代表の挨拶とさせていただきます。本日は、本当にありがとうございました。

令和 8 年 10 月 16 日

受賞者代表 甲斐 圭子